

高知市市民活動サポートセンター季刊誌

えぬびい! Oh!

2019 夏

Vol.72

▶2~3P

世界中の人々に本場のよさこいや
日本文化を広げたい

▶4~5P

国際的な音楽交流を中心に
高知を楽しくするプロジェクト

▶6P

昔遊びを観劇!?

~生の芝居が生み出すコミュニケーション~

▶7P

事件や被害にあったら一人で悩まずお電話を!

世界中の人々に本場のよさこいや日本文化を広げたい

寄稿 高知県よさこいアンバサダー

絆国際チーム代表

たなか えみこ
田中恵美子

よさこいアンバサダーとは

2016年に、高知発祥の「よさこい祭り」を日本以外の世界各国で普及しているよさこいチームの代表を「よさこいアンバサダー」として高知県が公式に認定し、「よさこい」の世界への展開と国際交流の促進を目指した制度です。桜舞ポールの代表として第一期よさこいアンバサダーチームに選ばれ、個人でも認定を受けたカナダ・トロント市在住の田中恵美子さんに話を伺いました。

■よさこい（踊り）との出逢い

2006年に地元名古屋でよさこいチームの代表をしていた友人に踊り子が足りないと言われて「RAN」というチームに入って、にっぽんと真ん中祭りで踊ったのがよさこいとの出逢いです。

ただそれよりも、2007年にワーキングホリデービザを取得してカナダに渡ったのですが、そこでホームシックになってしまい、そんな時に舞踊というチームに入ってイベントでよさこいを踊ったこと、そしてそのチームでメジャーリーグの球場でヤンキースの試合の際によさこいを披露したことが自分の中の大きな出逢いとなっています。

その後、舞踊の代表をしていた友人のヒンクル友里香さんと桜舞トロントというよさこいチームを立ち上げたことが、本格的なよさこいの活動の始まりです。

■海外生活とよさこい普及活動

以前沖縄でスキューバダイビングの仕事をしてきたことがあり、海外の海でも潜りたいと思う想いからオーストラリアへ1年間滞在しました。その際にもっと広い世界を見たいと思い、世界中で働けるチャンスがある日本語教師になりました。

教師になって10年以上が経ちますが、言語だけではなくその国の文化なども知る必要があったりと奥が深く、やり甲斐がある素晴らしい仕事だと思えます。

海外で生活を始めるようになってから母国の素晴らしさを改めて実感する機会が多々あり、世界中の人々に日本文化の一つであり、自分が大好きなよさこいを通して日本の魅力を伝えたいと思うようになりました。私は、日本語教師として言語だけではなく日本文化も一緒に伝えていきたいと常々思っており、よさこいには言葉や文化など国と国との壁を越えて一つになれる力があり、鳴子を握れば皆が笑顔になり心を一つにできる、素晴らしい日本文化だと思います。

よさこいを通して高知県、日本の魅力を世界に広げていきたい！そして日本と世界との懸け橋を作れたらという想いでよさこい普及活動をしています。

■よさこいアンバサダーとしての活動

現在は世界によさこいチームがない国へ行き、よさこいを普及する「よさこいマイスター」にも登録しており、2018年にはハンガリーのブダペストにて「ハンガリーよさこい連純恋」を立ち上げた際に高知県より鳴子などの支援をしていた

できました。

そして2019年は「高知県よさこいアンバサダー絆国際チーム」として活動を始め、世界中のよさこいアンバサダーが集まったチームとして世界によさこいを広げる活動をしています。

■2018年よさこい祭りに参加して

地方車の制作など費用面だけではなく、日本に住んでいない事で準備が難しい部分が多々あり、高知の方々の協力があってこそ成功だったと思います。それから世界12カ国・地域から踊り子が参加したことで時差が発生し、24時間連絡が途絶えなかったことでスケジュールと体調管理が大変でした。

さらに、よさこい祭り直前まで顔を合わせる事ができなかった為、会えば簡単に進められる事もインターネットを駆使しながら一つ一つ進んで行くことが何より一番大変だったと思います。ただ顔を合わせられない分、お互いが相手の事も思い合ってやり取りを進めて行く様にもなり、会えないからこそ言葉の選び方に気を付けたり、学んだ事が多々ありました。本場高知のよさこい祭りを世界中の踊り子に経験させてあげられたこと、ずばりこれが私の一番したかった事であり、国際チームを立ち上げて良かったことです。

私はよさこいを始めて13年目になりますが、よさこいアンバサダーになり高知でよさこい祭りを経験して初めて学んだ事がたくさんありました。自分が愛して止まない、大事にしているものがあるればそのルーツを知りたいという気持ちがあるのは当たり前だと思います。費用、言語、距離等の



▲全国大会の中央公園競演場での演舞にて(中央：田中さん)



▲2018年のよさこい祭り
世界12の国と地域から63名の踊り子が集まりました

問題があり、よさこい祭りに参加できない世界の踊り子たちに世界中どこからでもよさこい祭りに参加できるチームを作り、本場を体験してもらい、その経験を各国で広めてほしいーこれが私の一番の目標であり、それが現実として形になったことが一番良かったことだと思います。そして国際チームの踊り子が日本の、そして高知の皆さんと触れ合うことで、よさこいを通して国際交流ができた事も良かったことの二つです。

■高知の印象

広大な自然と美味しい食べ物とお酒が魅力で、とにかく皆さん親切という印象を持っています。私は高知出身ではないので国際チームの代表となった時に反発を受ける事も心配していたのですが、本当にあたたかく迎えて下さいました。地元の方に世界中でよさこいが広がっていることをお話した際には、驚いた反応と共に広めてくれてありがとうという優しいお言葉をいただきました。高知の皆さんのあたたかさ、明るさ、全てが大好きです。そして国際チームが2年目に入ってもたくさん的高知スタッフの皆さんがチームを支えようと残って下さっていることが何より嬉しいです。

■2019年絆国際チームの意気込み

今年には更に多くの国から踊り子が集まり、世界18カ国・地域から90名の踊り子と共によさこい祭りに参加いたします。

テーマは「WA!」。ワツと元気よく叫びたくなるような元気一杯な楽曲にのり、世界をモチーフ

にしたカラフルな衣装に身を包んで元気よく舞います。

楽曲は昨年に続きポーランドで活躍されている松本在人あるとさんが作曲、そして高知にゆかりのあるロックバンド・フラチナリズムさんに作詞と編曲をしていただき、そして新たに振付師として高知県出身でカナダ在住のダンサーとして活躍されている瀬川貴子せがわたかこさんを迎えました。私たちのよさこいで世界を一つにしたいという想いを込めて一杯踊りますのでどうぞ応援の程よろしくお願いいたします!

■これからの目標

よさこいアンバサダーとして、そして絆国際チームの代表としてこれからもよさこいを世界に広め続けていきたいです。そして二つ先の目標として今二つ考えている事がございまして、一つは絆国際チームとは逆の発想で、日本の踊り子さんに海外に来て踊っていただけのようなよさこい祭りを開催すること。そのお祭りを通して、日本と海外の踊り子達を結び付けたい、そして世界中の人々に本場のよさこいを実際に観てもらえる機会を作りたいと思っています。

そしてもう一つは、よさこいというジャンルを超えて、日本文化を世界に広められるようなイベントを開催できればと考えています。

先日、阿波踊りの寶船たからぶねさんと開催したコラボレーションイベントは、同じ日本の文化を世界で伝えるアーティストとして刺激し合える素晴らしい機会となりました。そんなジャンルの垣根を超えた活動をこれからもしていきたいと思っております。

国際的な音楽交流を中心に高知を楽しくするプロジェクト

寄稿 事務局長 吉田 剛治ごうじ

音楽と高知が大好きなスタッフ、また音楽と高知が大好きなお客さんが集まり一つの会場で世界中様々な音楽を楽しむ「国際的な音楽交流を中心に高知を楽しくするプロジェクト」という団体があります。筆者自身も高校1年次からスタッフの一員として携わらせていただいております。この楽しさをもっとたくさんの方に知ってもらいたい、もっとたくさんの方々と音楽を楽しみたい、と思い、記事にしようと考えました。

そこで、当プロジェクトの事務局長 吉田さんに寄稿いただきました。

(国際デザイン・ビューティカレッジ

グラフィックデザイン科 2年 結城)

■はじめに

「国際的な音楽交流を中心に高知を楽しくするプロジェクト」という、非常に長い名前の、なかなか完璧に名前を覚えてもらえない、さらに領収書を書いてもらう時に大変心苦しい組織は、その名前の通り「音楽を通じた国際交流、音楽を通じてまちを元気にしよう!」という目的で2008年2月に結成されました。

■結成までの流れ

この団体が結成されるきっかけは、「ジャズコア

フライブルク」というドイツの市民コーラスグループを高知に招きたいというメンバーの呼びかけで集まった実行委員会です。

この実行委員会には、お花屋さんやイラストレーター、薬剤師さんに英会話の先生と、多種多様な職業の音楽が大好きな人が集まって、それぞれに得意な分野で力を発揮し、かるぽーと大ホールに満員のお客さまを迎え、見事コンサートを成功させました。



▲「ジャズコアフライブルク」ステージの様子

普通の実行委員会では、コンサートの終わりに残務が片付き次第解散となるのですが「これ

解散するのはもったいない!」「もっと高知を音楽で盛り上げたい!」というメンバーの声が高まり「国際的な音楽交流を中心に高知を楽しくするプロジェクト」が生まれました。

■活動内容

プロジェクトの活動は、単独コンサートの開催やレクチャーコンサートの企画なども行っていますが、活動の中心となっているのが「ワールドミュージックナイト」(WMN)というプログラムです。

知らない国の音楽を届けるだけでなく、その国の料理も楽しめる、静かにお行儀良く聴くのではなく、もっと積極的に楽しめるような、お祭りのような賑やかなコンサートがあってもいいんじゃない?という思いつきで始めたプログラムで、2008年10月に南米フォルクローレの演奏を行う多国籍バンド「WAYNO」を招いた第1回公演から、今年で31回目を迎えることが出来ました。



▲ワールドミュージックナイト第1回公演「WAYNO」
上:ステージの様子
下:お客さんの様子

▶これまでの公演の様子



■WMNのこれまで、これから
「ワールドミュージックナイト」は、コンサートを主催する上では何より大事な、ミュージシャンの知名度や動員力よりも、まだ見ぬ音楽との出会いや、プロジェクトメンバーの「この人の演奏を聞きたい!」という情熱を優先しています。
これまでに招いたミュージシャンは、アメリカ、ブラジル、ペルー、アルゼンチン、ウルグアイといった中南米、ヨーロッパからはイスラエルやオランダ、さらにはセルビアやブリヤート共和国（ロシア連邦）といった、自分たちがこれまで知る機会の少なかった国からも演奏家を招いて公演を行っています。



スタッフ募集!
ちなみに当プロジェクト、新メンバーは随時大募集しています。
どうぞ一緒に高知を楽しんでいきますか?

■最後に
これまで30回以上にわたって「ワールドミュージックナイト」を開催してきて感じることは、お客さまやプロジェクトメンバーが持つ「一緒に音楽を楽しむ心」の素晴らしさだと思います。
ひとつの空間・時間にみんなが集い、音楽の力をストレートに感じてもらうことで、それぞれの暮らしの活力に繋がっていく。文化芸術が持つ力と言うと大げさに聞こえますが、少しでもこのプロジェクトの活動に対してそういった思いを感じていただければ幸いです。

お問い合わせ
090-6488-8401(吉田)

国際的な音楽交流を中心に高知を楽しむプロジェクト ホームページアドレス
<http://koku-pro.com>



▲第28回WMN「山村誠一とさえずりな夜」終了後の集合写真(右端:吉田さん)

昔遊びを観劇！？

＜生の芝居が生み出すコミュニケーション＞

5月30日高知市文化プラザかるぽーと小ホールにて、NPO法人高知市子ども劇場の低学年例会として劇団風の子中部『ぼらりつとせ』が行われました。

■高知でも生の芝居を

公演の前に、高知市子ども劇場の事務局長、坂倉豊さんにお話を伺いました。

「高知市子ども劇場」や、活動について教えてください。

「坂」もともと子ども劇場は子どものための文化を振興させるために福岡で始まった活動です。高知市子ども劇場は高知にもそのような芝居を呼びたいという母親たちの声から始まりました。子どもたちのためのお芝居の上演や季節行事などの自主活動もしています。

「高知市子ども劇場さんが大事にしていることについて教えてください。」

「坂」生の人間がやっているということが芝居の特徴です。そのため、同じ作品でも上演する回によって変化があります。そして芝居は観る方と演じる方で伝え合うコミュニケーションです。距離もあり直接語るわけではありませんが、役者は舞台でやっているものを客席に伝えます。そのような生の芝居を高知で上演し続けることやそのような空間を存在させることを高知市子ども劇場は大切にしています。

■観劇内容

大きなかごを背負った役者さんが歌いながら入場することで劇は始まりました。役者さんは遊び歌を歌いつつお手玉を足の下にくぐらせたり、大縄跳びの中で縄跳びをしたりと次々と洗練された芸を披露していきます。また、三味線の演奏に乗せて『はなさかこぞう』というお芝居も上演されました。このように公演は昔遊びや数え歌やお芝居と内容盛りだくさんのものでした。さらにロビーには今回の公演に合わせて遊びコーナーがあり、そこで子どもたちはお手玉などの昔遊びを体験していました。

■『ぼらりつとせ』を見て

劇中の昔遊びはどれも高度で目を離すことができませんでした。役者さんがとても楽しそうに舞台上を駆け回っている様子が印象的で、役者さんの楽しいという感情がこちらまで伝わってきました。これが芝居におけるコミュニケーションなのだなど今回の観劇で強く感じました。

このように高知市子ども劇場では、定例会として年に4回プロの劇団やアーティストを招いて舞台鑑賞をしています。また高知市子ども劇場は会員制であるため、継続的にかかわることができず、会員は随時募集しているそうです。気になった方は、下記へご連絡ください。

(高知大学 二回生 杉本沙栄子)



▲岐阜の特産品の和傘で芸を披露していました。



▲子どもたちは遊びコーナーでお手玉や缶ぽっくりで遊んでいました。

事件や被害にあったら一人で悩まずお電話を！

寄稿 認定 NPO 法人こうち被害者支援センター おかのうえひろし さいとう けいて 岡上裕・斎藤慶子

ある日突然「まさか、こんなことが」と、思ってもいない事件や事故、犯罪に巻き込まれ、あなたやあなたの家族が、被害をうけることが多発しています。そんな時、どうしたらいいのか、誰に相談をすればいいのか分からず、不安を感じることがあります。

認定 NPO 法人こうち被害者支援センター（以下、支援センターとする）は、そのような事件や事故の被害にあった方やその家族の方々に、様々な支援を行っています。

（のむ）

■早期援助団体

支援センターは、高知県公安委員会から、被害者の方たちに早期に分かりやすくつなげるため、ある一定の質のサービスを提供できる団体として、犯罪被害者等早期援助団体に指定されています。また、全国被害者支援ネットワークにも加盟しています。

■こんな活動をしています

高知県では、犯罪被害者とそのご家族に対する支援を盛り込んだ条例の制定をめざしています。支援センターも関係機関と連携し、次のような活動を行っています。

●電話相談・面接相談

専門的な研修を受けた支援員等が、電話や面接により相談をお受けします。必要に応じて、弁護士や臨床心理士の専門相談も行います。

●付添いなどの直接的支援

相談者のご要望に応じて、病院・警察・裁判所等への付添いや被害者参加裁判への付添い、傍聴支援等の直接的な支援を行います。

●支援員の養成講座と研修

センターの支援活動は、ボランティア支援員により行われ、活動に従事する支援員を養成するための講座を毎年開催するほか、支援員になっても継続的に研修を重ね、相談・支援技術の向上に努めています。

●広報・啓発活動

「いくら法制度が完備されても、人の傷を癒すのは人の心の温かさである」と言われます。被害者の方たちが平穏な生活を取り戻すためには、社会全体で支えることが必要です。

被害者の置かれた現状と支援の必要性を皆さんに知っていただくため、講演会や街頭パレード等を行っています。



▲2018年11月30日帯屋町アーケードでの犯罪被害者週間パレードの様子（参加者400名）

また、県内の小・中・高校にて、「いのちの出前授業」を開催しています。

事件や事故の被害にあったら、一人で悩まず、お電話を。

性暴力被害者サポートセンターこうち
性暴力被害者サポートセンターこうち（CORAL CALL）は、性暴力被害にあわれた方たちのための相談・支援窓口です。



▲2019年2月3日高知会館での犯罪被害者支援講演会（講師：山本潤さん、参加者101名）

同意のない、対等でない、強要された性行為は、すべて「性暴力」です。性暴力は、著しい人権侵害であり、犯罪です。性暴力は、性別・性自認や性指向に関わらず起きています。

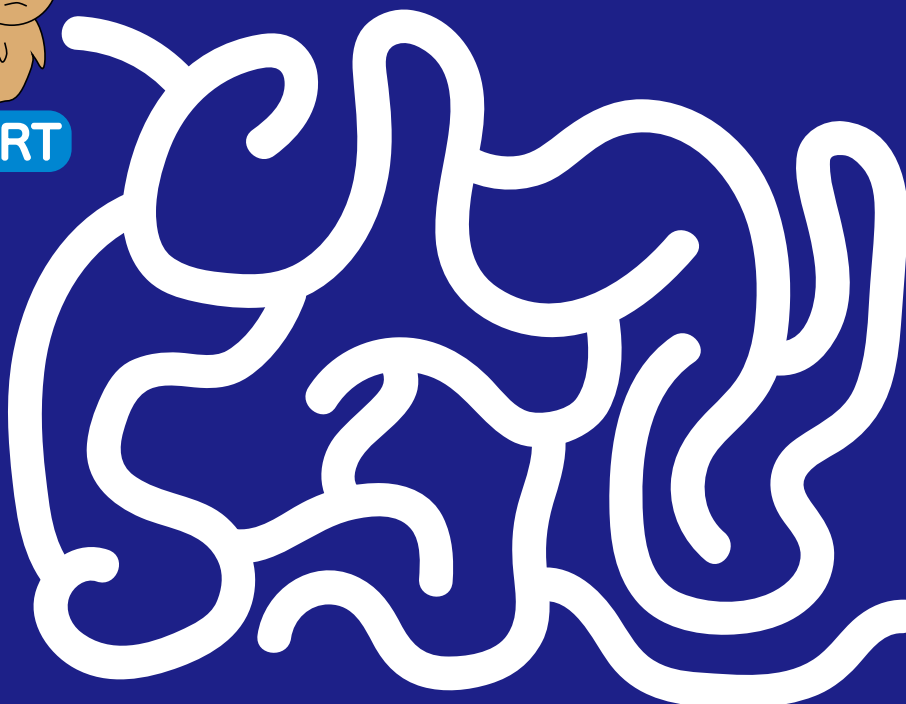
もし性暴力被害にあわれたら…

からだを守るため、できるだけ早く病院で診察を受けることが大切です。一人で病院や警察に行くのが不安…警察に届け出るかどうか迷っている…そんな時は、まず性暴力被害者サポートセンターこうち専用電話「CORAL CALL」にご相談ください。

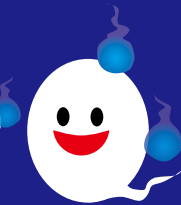
👹おぼけ迷路👹



START



GOOL



答えは高知市市民活動サポートセンターのホームページに掲載中。

URL : <http://www.kochi-saposen.net/>

#編集スタッフの



つぶやき

発行 高知市市民活動サポートセンター

企画編集 認定特定非営利活動法人
NPO高知市民会議 広報部会

〒780-0862 高知市鷹匠町2丁目1-43 高知市たかじょう庁舎2階
月～金/10:00～21:00 土/10:00～18:00(日・祝日は休み)

TEL : 088-820-1540 FAX : 088-820-1665

E-Mail : info@siminkaigi.org

WEB : <http://www.kochi-saposen.net/>

この冊子は再生紙を使用しています



@有光

就職活動も終わり、来年から高知を離れると思うと少し寂しく思いますが、だからこそ今年一年を有意義に楽しみたいと思います。



@横田

我が家も物が溢れてきたので流行りの断捨離を始めたのだが、自分の仕事は収集癖の賜物だからな…と言い訳しながらなので、当然全く進まない。



@もうり

最近とても暑いですね。私は暑さで体調を崩しがちなので、今年こそはうなぎを食べて体力を付けたいです…!



@しのみや

昨今、介護職員による高齢者への虐待報道をよく耳にするが、職員の気持ちにも触れてほしいと思う今日この頃。



@みやわき

新しいMacを買いました。先代iBookG4から実に15年ぶり。今やスマホが便利になり、デスクトップの出番も少なくなったような。



@森岡

前にも増して出張が増え時代換りも県外でした。NPOの役割が益々重要な時代になると思います。



@おおの

習いごとの発表会で2年ぶりに舞台上に上がることに!セリフが飛びませんように!!ドキドキ…(//w//)



@半田

7月です。よさこい練習の風景を見かける季節になりましたね。色んなところから鳴子の音が聴こえてきます。今年も暑い夏になりますように!よっちょれ!